

屋久島から得られたタイ科魚類タイワンダイ

畑 晴陵¹・本村浩之²

¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究科

² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

はじめに

タイワンダイ *Argyrops bleekeri* Oshima, 1927 はスズキ目タイ科タイワンダイ属に属する沿岸性魚類で、日本からインドネシアにかけての西太平洋に分布する(林・萩原, 2013)。本種は、琉球列島において多数が漁獲され、食用魚として重要であり(新垣・吉野, 1984; 三浦, 2012)、生態に関する研究も多くなされている(例えば、上原ほか, 2013)。沖縄県内では“よなばるまじく”と称され(赤崎, 1997; 三浦, 2012)、与那原町の町魚に指定されたほか(与那原町, 2015)、沖縄に伝わる民話にもその名を現すなど(与那原町教育委員会文化財審議委員会, 2006)、身近な魚種である。しかし、琉球列島よりも北の海域における本種の記録は極めて少なく、遠州灘、和歌山県、高知県、薩摩半島西岸、および種子島東岸からの記録に限られていた(赤崎, 1962; 岡本, 1998; 黒潮生物研究財団, 2005; 林・萩原, 2013; 畑ほか, 2015)。

2016年11月21日に屋久島沖から1個体のタイワンダイが採集された。本標本は屋久島における本種の標本に基づく初めての記録となるため、ここに報告する。

材料と方法

計数・計測方法は赤崎(1962)とIwatsuki et al. (2007)にしたがった。標準体長は体長と表記し、体各部の計測はデジタルノギスを用いて0.1 mmまでおこなった。タイワンダイの生鮮時の体色の記載は、固定前に撮影された屋久島産の1標本(KAUM-I.95788)のカラー写真に基づく。標本の作製、登録、撮影、固定方法は本村(2009)に準拠した。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館(KAUM)に保管されており、上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。

結果と考察

Argyrops bleekeri Oshima, 1927

タイワンダイ (Fig. 1)

標本 KAUM-I.95788, 体長356.0 mm, 屋久島近海, 釣り(鹿児島市中央卸売市場魚類市場で購入), 2016年11月21日, 定置網, 畑 晴陵。

記載 背鰭棘数11; 背鰭軟条数10; 臀鰭棘数3; 臀鰭軟条数8; 胸鰭軟条数15; 腹鰭棘数1; 腹鰭軟条数5; 側線有孔鱗数50; 側線上方横列鱗数7; 側線下方横列鱗数16; 頬部横列鱗数3; 鰓蓋上横列鱗数5; 上枝鰓耙数10; 下枝鰓耙数16; 総鰓耙数26。

体各部の体長に対する割合(%)：尾叉長115.2; 体高49.7; 頭長31.1; 胸鰭基底部における体幅15.2; 吻長18.1; 眼窩径8.5; 眼径7.1; 眼下骨幅13.1; 眼隔域幅9.9; 上顎長12.4; 尾柄高

Hata, H. and H. Motomura. 2017. First record of *Argyrops bleekeri* (Perciformes: Sparidae) from Yaku-shima island, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 43: 161-164.

✉ HH: the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: k2795502@kadai.jp).



Fig. 1. Fresh specimen of *Argyrops bleekeri*. KAUM-I. 95788, 356.0 mm SL, Yaku-shima island, Osumi Islands, Kagoshima Prefecture, Japan.

11.9；尾柄長 19.0；背鰭前長 47.7；臀鰭前長 65.4；腹鰭前長 35.2；背鰭基底長 58.3；臀鰭基底長 21.1；腹鰭棘長 19.5；胸鰭長 32.0；背鰭第 3 棘長 41.0；背鰭第 4 棘長 32.4；背鰭第 5 棘長 25.2；臀鰭第 1 棘長 3.6；臀鰭第 2 棘長 11.3；臀鰭第 3 棘長 10.4；臀鰭第 1 軟条長 9.9。

体は著しく側扁し、円盤状を呈する。体高は背鰭第 3 棘起部で最大。体背縁は吻端から眼の前方にかけて急激に上昇し、体軸に対し垂直に近い。眼の前方から背鰭第 3 棘起部にかけての体背縁は緩やかに盛り上がり、そこから尾鰭基底上端にかけての体背縁は緩やかに下降する。体腹縁は下顎先端から臀鰭起部にかけて極めて緩やかに下降し、そこから尾鰭基底下端にかけて緩やかに上昇する。胸鰭基底上端は鰓蓋後端よりも僅かに後方に位置し、胸鰭基底下端は背鰭第 2 起部直下に位置する。胸鰭後端は尖り、臀鰭起部直上に僅かに達しない。背鰭起部は胸鰭基底上端直上、背鰭基底後端は臀鰭基底後端よりも僅かに後方にそれぞれ位置する。背鰭第 1 棘は極めて短く、第 2 から第 6 棘は糸状に伸長する。背鰭軟条は全て分枝する。腹鰭起部は胸鰭基底下端よりも僅かに後方、腹鰭基底後端は背鰭第 3 棘起部よりも僅かに後方にそれぞれ位置する。たただ腹鰭の後端は肛門に達する。臀鰭起部は背鰭第 11 棘起部よりも僅

かに前方、臀鰭基底後端は背鰭第 9 軟条起部直下にそれぞれ位置する。臀鰭第 1 棘は短く、臀鰭棘は第 2 棘が最長。臀鰭軟条は全て分枝する。尾鰭後縁はほぼ直線状を呈するが、僅かに湾入する。体は櫛鱗に被われ、眼の周囲、吻部、両顎、および前鰓蓋骨後部は被鱗しない。背鰭前方被鱗域は左右の前鼻孔の先端を結んだ線に達し、先端は平坦。側線は鰓蓋後方から尾柄にかけて体背縁とほぼ平行にはいる。肛門は正円形を呈し、臀鰭起部前方に位置する。鰓蓋および前鰓蓋骨の後縁は円滑。眼と瞳孔はともに正円形。鼻孔は 2 対で、前鼻孔と後鼻孔は互いに近接し、眼の前縁前方に位置する。前鼻孔は小さく円形で、後鼻孔は大きく、細長いスリット状。鰓耙は瘤状。上顎左側の犬歯は 2 本、側歯は 2 列で外側列は前方から 4 本の円錐歯、3 本の臼歯が順に並んでおり、内側列は前方から 4 本の円錐歯、4 本の臼歯が並んでいる。鋤骨には歯がない。下顎左側の犬歯は 2 本で、側歯は 2 列で外側列は前方から 3 本の円錐歯、4 本の臼歯が順に並んでおり、内側列は前方から 4 本の円錐歯、5 本の臼歯が並んでいる。両顎側部にある 2 列の臼歯は強大。

色彩 生鮮時の色彩 体背面から体側上部は桃色。体側中部から体腹面にかけては銀色。体側上部から体側下部の各体側鱗と鰓蓋の各鱗には瞳孔よりも小さい金色斑点がはいり、縦帯を形成する。鰓蓋後縁と胸鰭腋部は赤色。背鰭鰭膜は桃色。背鰭各鰭条は淡い黄色。胸鰭各軟条は桃色を呈し、基底部付近では黄色がかかる。腹鰭は桃色を呈し、中央部は黄色。腹鰭の前縁と後部は白色。臀鰭各棘と鰭膜は白色。臀鰭中央部は黄色を呈し、黄色部は桃色に縁取られる。尾鰭は赤みがかった桃色。虹彩は金色を呈し、瞳孔は青みがかった黒色。

分布 本種は韓国、台湾、中国・浙江省、海南島、トンキン湾、ベトナム、南シナ海、インドネシア・ロンボク島、および日本から報告されている (Oshima, 1927；赤崎, 1962；久新ほか, 1982；Shen, 1993；Kim et al., 2005；Iwatsuki, 2009；Ho and Shao, 2011；林・萩原, 2013；畑ほか, 2015)。国内では遠州灘 (岡本, 1998)、和歌山県串本町 (黒潮生物研究財団, 2005)、高知県 (赤崎,

1962; Shinohara et al., 2001; 黒潮生物研究財団, 2005), 鹿児島県薩摩半島西岸, 種子島東岸 (畑ほか, 2015), 奄美大島 (井手口, 1992; 藤山, 2004; 林・萩原, 2013), および沖縄県 (新垣・吉野, 1984; 赤崎, 1997; 三浦, 2012; 林・萩原, 2013; 上原ほか, 2013; 畑ほか, 2015) から記録されていたが, 本研究により, 屋久島近海における分布も確認された。

備考 屋久島産の標本は, 上顎側部に白歯が2列並ぶこと, 鋤骨に歯を欠くこと, 頬部に8列の鱗が並ぶこと, 前鰓蓋骨後縁部が被鱗しないこと, 背鰭第2棘条以後の5棘は軟らかく, 糸状に伸長することなどが Oshima (1927) や 赤崎 (1962), Shen (1993) によって定義された *Argyrops* 属の特徴と一致した。また, 背鰭棘数が11であること, 背鰭第1棘が極めて短いこと, 背鰭第2棘以後5棘は軟らかく, 糸状に伸長することなどが Oshima (1927) や 赤崎 (1962), Shen (1993), Iwatsuki (2009) が報告した *Argyrops bleekeri* の特徴とよく一致したため, 本種と同定された。また, 記載標本の計数・計測値は畑ほか (2015) によって示された *A. bleekeri* の値と概ね一致したが, 尾叉長と眼径の体長に占める割合がわずかに小さい。これらの若干の相違は, 畑ほか (2015) によって報告された標本の体長が 30.0–286.8 mm であるのに対し, 本研究の記載標本が 356.0 mm と大きいことから, 成長に伴う体各部の相対値変化によるものであると考えられる。

Argyrops bleekeri は南アフリカから南シナ海とオーストラリアにかけてのインド・西太平洋に広く分布する *A. spinifer* (Forsskal, 1775) に酷似するが, 背鰭棘が11 (*A. spinifer* では12), 背鰭第2棘以後の棘数本が糸状に伸長すること (背鰭第1–2棘は短く, 第3棘以後の棘数本が糸状に伸長する) で容易に識別される (赤崎, 1962; Carpenter, 2001)。

「はじめに」の項で触れた通り, タイワンダイは沖縄県においては多獲されるものの (三浦ほか, 2012), 鹿児島県以北における本種の記録は乏しい (林・萩原, 2013)。本種の国内における分布状況は畑ほか (2015) に詳述されているが, 鹿児

島県における本種の記録はこれまで奄美大島 (井手口, 1992; 藤山, 2004; 林・萩原, 2013), 種子島東岸, および薩摩半島西岸 (畑ほか, 2015) からのものに限られていた。また, 本種は屋久島の魚類相を報告した Motomura et al. (2010) や Motomura and Aizawa (2011) にも記録されていない。したがって, 記載標本は屋久島における本種の標本に基づく初めての記録となる。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり, 原口百合子氏をはじめとする鹿児島大学総合研究博物館ボランティアと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには適切な助言を頂いた。標本の採集に際しては, 標本の採集に際しては, 田中水産の田中 積氏ならびに鹿児島市中央卸売市場魚類市場の関係者の皆様に多大なご協力を頂いた。以上の方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は, 鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は笹川科学研究助成金 (28-745), JSPS 研究奨励費 (DC2: 29-6652), JSPS 科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS アジア研究教育拠点事業「東南アジアにおける沿岸海洋学の研究教育ネットワーク構築」, JSPS 若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム「熱帯域における生物資源の多様性保全のための国際教育プログラム」, 総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティの向上プロジェクト」, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性プロジェクト) 学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

■ 引用文献

- 赤崎正人. 1962. タイ型魚類の研究 形態・系統・分類および生態. 京大みさき臨海研究所特別報告, (1): 1–368.
- 赤崎正人. 1997. タイワンダイ *Argyrops bleekeri*. P. 357. 岡村 収・尼岡邦夫 (編), 山溪カラー名鑑 日本の海水魚, 第三版. 山と溪谷社, 東京.

- 新垣柴太郎・吉野哲夫. 1984. 沖縄釣魚図鑑. 新星図書出版, 那覇. 191 pp.
- Carpenter, K. E. 2001. Sparidae, porgies (seabreams). Pp. 2990–3003, in Carpenter, K. E. and Niem, V. H. eds. FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 5. Bony fishes part 3 (Menidae to Pomacentridae). FAO, Rome.
- 藤山萬太. 2004. 私本 奄美の釣り魚. 藤山萬太, 奄美. 179 pp.
- 畑 晴陵・伊東正英・高山真由美・本村浩之. 2015. 鹿児島県北部から得られたタイ科魚類タイワンダイ *Argyrops bleekeri* の記録. Nature of Kagoshima, 41: 123–127.
- 林 公義・萩原清司. 2013. タイ科. Pp. 955–959, 2013–2014. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Ho, H.-C. and Shao, K.-T. 2011. Annotated checklist and type catalog of fish genera and species described from Taiwan. Zootaxa, 2957: 1–74.
- 井手口龍哉, 1992. セキツイ動物. Pp. 127–209. 鹿児島県立博物館 (編), 鹿児島県立博物館収蔵資料目録. 第1集. 鹿児島県立博物館, 鹿児島.
- Iwatsuki, Y. 2009. Sparidae. Pp. 165–166 in Kimura, S., Satapoomin, U. and Matsuura, K. eds. Fishes of Andaman Sea. West coast of southern Thailand. National Museum of Nature and Science, Tokyo.
- Iwatsuki, Y., Akazaki, M. and Taniguchi, N. 2007. Review of the species of the genus *Dentex* (Perciformes: Sparidae) in the western Pacific defined as the *D. hypselosomus* complex with the description of a new species, *Dentex abei* and a redescription of *Eyynnys tumifrons*. Bulletin of the National Museum of Nature and Science (Ser. A) Supplement, No. 1: 29–49.
- Kim, I. S., Choi, Y., Lee, C. L., Lee, Y. J., Kim, B. J. and Kim, J. H. 2005. Illustrated book of Korean fishes. Kyhaku Publishing, Seoul. 615 pp.
- 久新 健一郎・尼岡邦夫・仲谷一宏・井田 齊・谷野保夫・千田哲資. 1982. 南シナ海の魚類. 海洋水産資源開発センター, 東京. 333 pp.
- 黒潮生物研究財団. 2005. 西泊沖で獲れたタイワンダイ. CURRENT, 6: 20.
- 三浦信男. 2012. 美ら海市場図鑑 知念市場の魚たち. ウェーブ企画, 与那原. 140 pp.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- Motomura, H. and Aizawa, M. 2011. Illustrated list of additions to the ichthyofauna of Yaku-shima Island, Kagoshima Prefecture, southern Japan: 50 new records from the island. Check List, 7 (4): 448–457.
- Motomura, H., Kuriwa, K., Katayama, E., Senou, H., Ogihara, G., Meguro, M., Matsunuma, M., Takata, Y., Yoshida, T., Yamashita, M., Kimura, S., Endo, H., Murase, A., Iwatsuki, Y., Sakurai, Y., Harazaki, S., Hidaka, K., Izumi, H. and Matsuura, K. 2010. Annotated checklist of marine and estuarine fishes of Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan. Pp. 65–247 in Motomura, H. and Matsuura, K., eds. Fishes of Yaku-shima Island – A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan. National Museum of Nature and Science, Tokyo.
- 岡本一利. 1998. 遠州灘で採捕されたタイワンダイ. はまな, 444: 4.
- Oshima, M. 1927. A review of the sparoid fishes found in the waters of Formosa. Japanese Journal of Zoology, 1 (5): 127–155.
- Shen, S.-C. 1993. Fishes of Taiwan. Department of Zoology, National Taiwan University, Taipei. 960 pp.
- Shinohara, G., Endo, H., Matsuura, K., Machida, Y. and Honda, H. 2001. Annotated checklist of the deepwater fishes from fishes from Tosa Bay. Monographs of the National Science Museum Tokyo, 20: 283–343.
- 上原匡人・岩本健輔・太田 格・海老沢明彦. 2013. 沖縄沿岸域の総合的な利用活用推進事業 (内湾性魚類の生態特性の解明). 沖縄水産海洋研究センター事業報告書, 74: 11.
- 与那原町. 2015. ヨナバルマジク, 町魚に指定. 広報よなばる, 464: 2.
- 与那原町教育委員会文化財審議委員会. 2006. 与那原浜の御嶽 御殿山 与那原区. 広報よなばる, 360: 16.